

手練

S H U R E N

第 12 号





表紙

会報名の手練（しゅれん）とは、熟練した手わざのことです。これからも、常に我々が文化財等の日本の屋根を守っているのだとの心構えを忘れず、会報名に恥じないような技術者になっていただくことを願って命名しました。

目次

■文化財屋根葺士・檜皮採取者(原皮師)・茅葺師養成研修 修了式並びに開講式	2
●来賓祝辞 文化庁文化財部参事官(建造物担当)付 文化財調査官 田中 禎彦 奈良県教育委員会事務局 文化財保存課 課長補佐 馬場 宏道 滋賀県教育委員会事務局 文化財保護課 課長補佐 菅原 和之	
●講師祝辞 公益社団法人 全国国宝重要文化財所有者連盟 常務理事 事務局長 後藤 佐雅夫	
●研修生謝辞 文化財屋根葺士養成研修 第21期生 村上 貢章	
●激励の言葉 京都市文化市民局 文化芸術都市推進室 文化財保護課 課長 川妻 聖枝	
■文化財屋根葺士養成研修 第22期生 後期研修 始まる	9
■茅葺師養成研修 第4期生 初級研修 始まる	10
■平成28年度 茅葺中級研修	11
■平成28年度 茅葺きフォーラム 開催	12
■平成28年度 檜皮採取中級研修 始まる	14
■平成28年度 文化財研修会	15
■平成28年度 檜皮採取技術査定会及び檜皮採取実演研修	16
■文化財屋根葺士養成研修 第22期生 前期研修 終了	17
■茅葺師養成研修 第4期生 前期研修 終了	19
■主任文化財屋根葺士 検定会 実施される	20
■平成28年度 檜皮採取者(原皮師)中級研修 終わる	21
■準会員 名簿	22
■あとがき	

文化財屋根葺士・檜皮採取者(原皮師)・茅葺師養成研修 修了式 並びに開講式

【修了式】

- 文化財屋根葺士養成研修 第 21 期生
- 檜皮採取者(原皮師)養成研修 第 16 期生
- 茅葺師養成研修 第 3 期生

期日 ■ 平成28年4月13日(水)

会場 ■ 京都市文化財建造物保存技術研修センター

文化財屋根葺士養成研修第21期生、檜皮採取者(原皮師)養成研修第16期生、茅葺師養成研修第3期生の修了式、並びに文化財屋根葺士養成研修第22期生、茅葺師養成研修第4期生の開講式を執り行いました。

今年も多数の御来賓、関係各位の御臨席のもと、研修生たちは皆緊張した面持ちで式に臨みました。日本の文化財を継承していくという仕事の重要性や意義を十分理解しながら、今後は各会社の中で一人前の職人を目指し、精進していただきたいと思えます。

また、新たな研修生8名が、これから知識と技術の習得に励むことになります。気を引き締めて、日々の研鑽に努めてください。

研修に際しましてご指導を頂きました、関係各位、講師の先生方には心より御礼申し上げます。

[文化財屋根葺士養成研修 第21期生]

- 大野 隼矢 / (株)大野檜皮工業
- 竹森 暢哉 / (株)友井社寺
- 大藤 義一 / (株)松村工務店
- 村上 貢章 / (株)村上社寺工芸社



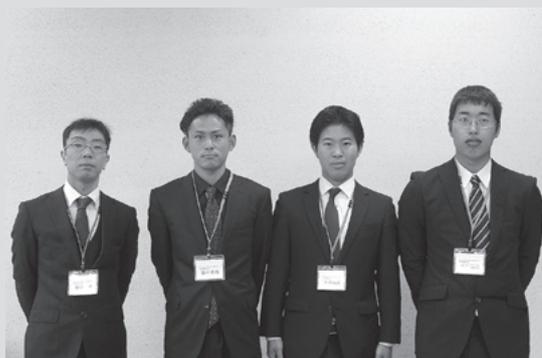
[檜皮採取者(原皮師)養成研修 第16期生]

- 森 壮馬 / 木下社寺建築
- 立木 覚士 / 岸田工業(株)
- 三又 誠也 / 岸田工業(株)



[茅葺師養成研修 第3期生]

- 櫻井 零 / 美山茅葺(株)
- 田中 順也 / 山田茅葺業
- 脇村 勇海 / ニシオサプライズ(株)
- 石井 規雄 / 山城萱葺屋根工事





【開講式】

- 文化財屋根葺土養成研修 第22期生
- 茅葺師養成研修 第4期生

[文化財屋根葺土養成研修 第22期生]

- 高島 優雅 / (有)社寺工芸大紀堂
- 井関 善晴 / (株)友井社寺
- 廣内 翔 / (株)村上社寺工芸社
- 榎原 孝宜 / (株)村上社寺工芸社



[茅葺師養成研修 第4期生]

- 余宮 祥平 / (同)大西茅葺
- 田中 貴也 / 山田茅葺業
- 吉川 一生 / 美山茅葺(株)
- 赤嶺 尚耶 / ニシオサプライズ(株)



京都市文化財建造物保存技術研修センター内にて

来賓祝辞

文化庁文化財部
参事官(建造物担当)付
文化財調査官 田中 禎彦



「文化財屋根葺士養成研修第21期生、檜皮採取者(原皮師)養成研修第16期生、茅葺師養成研修第3期生 修了式」「文化財屋根葺士養成研修第22期生並びに茅葺師養成研修第4期生 開講式」、にあたり、一言お祝いを申し上げます。

研修会を無事修了された皆さん、お疲れさまでした。長期間にわたる研修により、文化財屋根葺士や原皮師、そして茅葺師としての技術を修得し、またかけがえのない友人を得ることができたのではないかと思います。

また、新たに研修に参加される皆さんは、研修期間中、体調に留意され、有意義な研修を過ごしてください。

さて、あらためまして、皆さんは何が日本の伝統建築の特徴とお考えでしょうか。まずは、(いうまでもありませんが)木造建築であることです。日本は、豊かな森林環境を背景に、良質な木造建築が連綿とつくられてきました。その次の特徴としては、主要な構造が柱と梁で構成される、軸組構造を持つことです。これは、木造建築が盛んな他の国と比較してもわかりますが、たとえば北欧では校倉構造(ログハウス)が中心ですし、中国や韓国でも主要な構造を石積の壁にしたりしています。そして最後の特徴が屋根にかかわることです。すなわち、軒先を深く張り出した大きな三角形の屋根をもち、この屋根材料を檜皮、柿、茅といった植物性の資材で葺くところです。茅葺や板葺は他の国の木造建築でもみられますし、木の皮、たとえば杉皮を農作業用の小屋とか、あまり重要ではない建物に使うことはありますが、日本のように、檜皮や柿を、お寺の本堂や神社の本殿、あるいは貴族の住宅など、最高級の建物に用い、これを繊細優美な形に整える国は、他にありません。ここに日本の伝統建築の大きな特徴と、日本人独特の美意識をみることができます。

そして、そんな日本の伝統建築の美しい姿を今後も維持していくために、伝統的な屋根葺技術の継承が欠かせません。

そのためにも、受講者の皆様におかれましては、日本の守るべき文化財の形姿、ひいては日本の美しい景観は、皆さんの技術によって受け継がれるということをいまいちど自覚し、誇りをもっていただいた上で、今回の研修で得られる技術や技能をもとに、今後とも自己研鑽に努めていただきたいと思います。

最後に、今後、大いに活躍されますよう祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

本日は、誠にありがとうございます。



来賓祝辞

奈良県教育委員会事務局
文化財保存課
課長補佐 馬場 宏道



本日は屋根葺士養成研修第21期生、檜皮採取者養成研修第16期生、茅葺師養成研修第3期生の皆様、研修修了まことにおめでとうございます。日頃の仕事をしながらの長期間の研修で、たいへんご苦労されたことと思います。

私は奈良県で文化財保護に携わっております。文化財建造物の檜皮葺、茅葺の屋根の修理において設計監理を行うこともあり、修理の終わった屋根を間近で見せていただくこともあります。

竣工間もない屋根の真新しい材料、斑なく葺かれた豊かな曲面、伸びのある稜線で形作られた姿は誠に美しいものです。このような表現は、図面では表現できない部分であり、職人さんの工夫の現れだと思えます。また、細かなところに神経を使いながらも迷い無く施されていることは、職人さんのたしかな技術と自信に裏付けられたものだと思います。

修了された方々が習得に励まれた技術は、伝統的な美しさを後世に伝えていくために必要とされています。

お体に気をつけて、これからも精進していただきますようお願いいたします。

以上簡単ではございますが、研修生の皆さんの今後の活躍に期待するとともに、保存会の益々のご発展を祈念し、お祝いの言葉とさせていただきます。

本日は誠におめでとうございます。

来賓祝辞

滋賀県教育委員会事務局
文化財保護課
課長補佐 菅原 和之



本日は、文化財建造物屋根工事保存技術にかかる修了式ならびに開講式が行われますことに、心からお喜び申し上げます。また、平素は、全国社寺等屋根工事技術保存会の方々をはじめ、文化庁や多くの関係者・関係機関の皆様にご理解とご協力を賜っておりますことに、この場をお借りして厚くお礼申し上げます。

さて、滋賀県のアピールをするようにありますが、滋賀県は国指定建造物が244棟あり、京都府、奈良県に次いで全国第3位を誇る文化財建造物の宝庫です。さらに、滋賀県指定建造物につきましては105棟、国登録有形文化財建造物は371棟、重要伝統的建造物群保存地区は3地区と、大変に多くの文化財建造物が所在する県でございます。

皆様ご存知と思いますが、このように多くの文化財を保護するため、滋賀県教育委員会では、文化財建造物保存修理技術者を職員として県に置き、国・県指定の建造物を所有者より受託して保存修理工事を実施しております。

私も保存修理技術者のひとりですが、本日この場には、私が滋賀県でお世話になった技能者の方々がおられます。私も修理技術者として現場に出ますと、技能者の方々から学ぶことが大変に多くございます。

たとえば、檜皮葺にしましても、葺き上がった屋根を見ますと、その美しさにのみ目を奪われがちになりますが、その屋根は、竣工した時点から、同時に厳しい環境に晒されることとなります。そうした厳しい環境からいかに屋根を長持ちさせるのか、実はそのための見えない工夫と技術が、檜皮葺の伝統技法の中に大変に多く盛り込まれていることを若い頃に学びました。

本日は、研修を修了される方々、またこれから研修を受けられる方々がおられると思いますが、修了された方々も含め、若い皆様には、各職場の先輩や親方が、ひとつひとつの細かな作業工程にどのような工夫や技術を用いているのか、じっくりと観察し、また疑問点はどんどん質問して、その技術をしっかりと継承していただきたいと思えます。

大切なことは、諸先輩の仕事をしっかり見ることに、そして疑問が生じたら、自分で考え、あるいは先輩方に教えていただき、その疑問を自分自身で解決すること、単純なことと思われるかもしれませんが、そうした積み重

講師祝辞



公益社団法人
全国国宝重要文化財所有者連盟
常務理事 事務局長 後藤 佐雅夫

ねは、いずれは、自身が高い技能を身に付けた技能者となることに必ず結びつくものと私は考えています。ぜひ覚えておいていただきたいと思います。

結びになりますが、本日お集まりの皆様は、ここ京都府をはじめ、滋賀県や全国の文化財建造物が、後世に適切に保存継承されていくためになくってはならない方々であります。皆様方におかれましては、今後も技能の研鑽や後継者育成に努め、「全国社寺等屋根工事技術保存会」がますますご発展されますとともに、皆様のご健勝とご多幸をお祈りしまして、私のお祝いの言葉といたします。本日はまことにありがとうございます。

公益社団法人全国社寺等屋根工事技術保存会の文化財屋根葺士・檜皮採取者・茅葺師の修了式及び文化財屋根葺士養成研修・茅葺師の開講式にお招きいただき誠にありがとうございます。研修を修了された皆様、誠におめでとうございます。これから研修される方は未知の世界に挑戦されるわけですが、先輩に負けないような研修を受けてください。お祝いの席で修了された方に失礼かもしれませんが、講師の立場から見ますと、「主任文化財屋根葺士」の検定会の結果を見ますと褒められたものではありません。また、研修の現場に行っても誰一人メモを取る研修生はいません。各保存会や一般の人の研修講師をしています、私の説明にメモを取っている人が非常に多いです。質問もあります。研修は物見遊山ではありません。大工仕事や他の職種のことまで勉強はできないとは思いますが、少なくとも屋根に関することだけは、もっと真剣に見学してほしいと思います。私も約60年間文化財関係の仕事をしていますが、私の師匠は厳格な人で仕様書にあわないときはトラックのまま返品されたことがあります。師匠は文化財は国家の財産であり、社寺の財産でもある。一日でも長く持つような檜皮を選びなさいと教えられましたが、現在はどうかでしょうか。私も現役の時、オイルショックのため檜皮の入手が困難になり、文化庁とも相談し、今までの仕様を変更して葺いてもらったこともありました。現在は檜林も減少し、山林所有者の理解も得られなくなり、皆様の御苦労も大変であることは承知していますが、所有者から見ますと一日も長く持つてほしいと願うものです。また、茅葺であります、ある文化財所有者から、最近の茅葺はよく抜け落ちてくる、以前はこのようなことがなかった。また、カラスがよく来て困るので茅葺屋根にネットを張っているところもありました。どうして抜けるのか、「主任文化財屋根葺士」の検定会の受検生の作品を見てわかりました。

これから研修される方は健康には充分留意してください。お祝いの席で苦情ばかりを申し上げましたが、文化財所有者のため、皆様のために申し上げたものでお許してください。今後とも文化財保護のために皆様の技術と材料の確保をお願いするとともに貴保存会のご発展と役員様の御苦労に感謝して講師のお祝いの言葉とさせていただきます。



修了生謝辞

文化財屋根葺士養成研修
第21期生
村上 貢章



修了生を代表して、一言お礼の挨拶を申し上げます。
今回の研修では、本当に多くの方にお世話になりました。講義では、講師の先生方に建物の歴史や構造を教えて頂き、その後、実際に現地に足を運び、見学をしながら様々な建物に触れることができ、大変勉強になりました。また実習では、保存会の指導員の方から、皮切での包丁の使い方や屋根かなの振り方など、自分の持っている癖などについての確かなアドバイスを頂き、とても丁寧でわかりやすいご指導を受けることができました。現場実習については、各会社の現場をまわらせて頂き、実際の現場の緊張感を味わうことができ、また多くの方々を知り合う機会も増え、本当にいい体験ができたと思っています。

研修中は多くのご迷惑をお掛けしたとは思いますが、今後はこの研修で学んだことを生かし、諸先輩方の技術に負けず劣らぬよう、より一層の精進をしていきたいと思っております。

最後になりますが、今回研修でご指導いただきました講師の先生方をはじめ、保存会関係者の皆様には、貴重な時間を割いていただき、本当にお世話になりました。ありがとうございました。

激励の言葉

京都市文化市民局
文化芸術都市推進室
文化財保護課
課長 川妻 聖枝



本日は、文化財屋根葺士養成研修第21期生の**大野隼矢**さん、**竹森暢哉**さん、**大藤義一**さん、**村上貢章**さん、**檜皮採取者(原皮師)養成研修第16期生の森壮馬**さん、**立木覚士**さん、**三又誠也**さん、そして、**茅葺師養成研修第3期生の櫻井零**さん、**田中順也**さん、**脇村勇海**さん、**石井規雄**さんにおかれましては、無事研修を修了されたこと、誠におめでとうございます。

また新たに、文化財屋根葺士養成研修第22期生として、**高島優雅**さん、**井関善晴**さん、**廣内翔**さん、**榎原孝宜**さんの4名の方々、茅葺師養成研修第4期生として、**余宮祥平**さん、**田中貴也**さん、**吉川一生**さん、**赤嶺尚耶**さんの4名の方々をお迎えしました。誠に喜ばしいことで、研修生の皆様は、体に気をつけて頑張っていたきたいと思います。

皆さまもご存じのとおり、先月文化庁の京都移転が決定し、京都市におきましても、4月1日付で「京都創生担当局長」「文化庁移転推進室」を新たに設け、京都府におかれましても担当部署を設け、移転に向けての準備に取りかかりました。京都の文化財や文化資源と「観光」や「ものづくり」「景観」などの関連施策と融合させ、活用していく先進的な取組を積極的に推進しているところであり、文化庁の京都移転を契機に、我が国の文化力向上に大きく寄与できるものと思っております。

この京都の文化財が、長い年月にわたってその歴史的な価値を保ち続けることができたのは、修理に必要な資材の確保や日本古来より伝わる木工技術や屋根葺き、左官、彩色など様々な伝統的技術の継承がなされたからだ



と思います。

一昔前は容易に入手できた伝統的な建造物を造るための材料も、現在では手をかけ資金をかけて計画的に育てていく時代となり、伝統的技術についても、技術者の減少、高齢化が深刻な問題となっております。

今日、文化財を保護していく上で、修理に必要な材料をいかに確保し、伝統的な建築技術をいかに後世に伝え、後継者育成し続けることができるかが、非常に重要な課題となっていると思います。

このような状況の下、全国社寺等屋根工事技術保存会様の取組は、文化財保護にとって非常に有意義なものであります。このようにたくさんの若い方々が、ここ京都市文化財建造物保存技術研修センターで、文化財建造物の保存技術を学ばれて、全国の文化財修復の現場で御活躍いただいておりますことは、まことに心強いことでもあります。

文化財は、地域や国の文化を象徴する存在として、確実に守っていかなければなりません。それが国民の責務だと思います。今回、研修を終了された方々、あるいはこれから受講される方々は、文化財の保存技術者として

ますますの研鑽に励んでいただき、将来の文化の担い手として御活躍されますことを祈念いたしまして、簡単ではございますが、激励の言葉とさせていただきます。



文化財屋根葺士養成研修 第22期生 後期研修 始まる



あて台作りから

平成28年度国庫補助事業、文化財屋根葺士養成研修第22期生は4月13日、京都市文化財建造物保存技術研修センターでの開講式を済ませた後、5月11日より前期研修を本格的に開始いたしました。今年度も4名の研修生が受講し、センター内実習室では檜皮の材料整形、屋根葺等の技術的な研修を行いました。また、6月20日からは檜皮葺の現場実習に岡山県へ行きました。まだ研修は始まったばかりで戸惑うこともあったとは思いますが、慣れない生活の中でも良く頑張っております。

今後は、実習に加え座学として、日本建築史、京都府教育委員会の現場監督による、京都市内の現行施工現場での建築史演習など、技術的なことのみならず、文化、歴史、建築様式、構造等、多種多様な分野をこの2年間で学ぶこととなります。この間の修学は、直ぐに理解できるものではないかもしれませんが、今後この仕事に携わっていくうえで、個人の大きな財産になります。研修生の皆さん、どうか有意義に研修を行っていただきたいと思っております。最後になりましたが、関係各位には今後ともご指導、ご協力の程宜しくお願い致します。



材料整形



模型屋根葺実習



指導員の説明に真剣に耳を傾ける研修生



現場実習

茅葺師養成研修 第4期生 初級研修 始まる

おかげをもちまして、今年度4月より茅葺師初級第4期生を4名の研修生で執り行うこととなりました。全国的にも減少しております茅葺職人ですが、每期4名の研修生を迎えることが出来ますのは、本当に嬉しいかぎりです。あくまで、茅葺の基本的なことを勉強していただき、大きな間違いの無いような屋根を葺き上げることが出来る職人になって頂くことを願っております。

地方性の多い茅葺屋根は、どの葺き方が一番ということではなく、地方地方の特色が、その土地の風土、暮らし、気候すべてを兼ね備えています。そこを忘れることなく、学んでほしいものです。今までの修了生も本当に勉強熱心で、こちらも学ばせていただくことがたくさんありました。今期からの研修生も負けないように頑張っていって頂けることを願っております。



座学



模型屋根の茅取り外しから



模型屋根の下地組



茅拵え

平成28年度 茅葺中級研修

今年度の茅葺中級者研修では、鳥取県は米子市の近く、「むきばんだ史跡公園」内にある弥生時代の竪穴住居で、茅葺屋根の葺き替えを行いました。この時代の屋根は、茅葺屋根の原点である「さか葺き」で葺かれていることが特徴です。

いつもテーマにしておりますが、できるだけその時代のやり方を考えながら施工していくようにしています。私たちの世代は、さか葺きを経験したことがありません。唯一さか葺きを経験されている職人も、保存会の中でわずか3人となりました。この時代、缺らしきものはなく、どのように葺かれていたのかは誰にもわかりません。しかしながら、さか葺きの経験を持っておられる田中正光講師のもと、研修生の2人が工夫をしながら葺き上げていきました。基本はみな同じというものの、材料も決して同じものはなく、今までになく難しい屋根だったと思います。

これを機会に、より深く考えながら普段の屋根も葺いていけるようになってくれることを期待しています。



妻面葺き止め



下地修理



解体



竹での補助おさえ



葺き替えを終えた妻木晩田遺跡

平成28年度 茅葺きフォーラム 開催

期 日 ● 平成28年7月8日(金)
会 場 ● 鳥取県立むきばんだ史跡公園
(鳥取県西伯郡大山町妻木1115-4)

「むきばんだ史跡公園」内にある竪穴式住居の葺き替えを行っているさなか、茅葺きフォーラムを開催いたしました。この公園内で、調査活用担当でいらっしゃる文化財主事 長尾 かおり様の講演に続き、3人の保存会正会員のさか葺きを経験された方の話をもとに、討論会を行いました。テーマはずばり、「さか葺き」についてです。なぜ今の形に変わったのか？若い職人たちから発せられる様々な意見と討論に、茅葺きの将来は明るい…と感じたのは、私だけではなかったと確信しています。

文化庁 田中 禎彦様をはじめ、文建協 岡 信治様、むきばんだ史跡公園所長 信組 義彦様、長尾様及び関係者の皆様に深くお礼申し上げます。



妻木晩田遺跡

指導の様子



見学会 「むきばんだ史跡公園」

現場説明 ● 公益社団法人 全国社寺等屋根工事技術保存会 正会員 田中 正光

協議会 「弥生の館むきばんだ内 体験学習室」

開会挨拶 ● 公益社団法人 全国社寺等屋根工事技術保存会 会長 村上 英明

来賓挨拶 ● 文化庁文化財部参事官(建造物担当)付 文化財調査官 田中 禎彦

公益財団法人 文化財建造物保存技術協会 事業部

国宝 出雲大社本殿ほか22棟 設計監理事務所長 副参事 岡 信治

鳥取県立むきばんだ史跡公園 所長 信組 義彦

講演 ● 鳥取県立むきばんだ史跡公園 調査活用担当 文化財主事 長尾 かおり

題目「発掘調査成果から復元される弥生時代の建物について ～妻木晩田遺跡の事例から～」

討論会 ● 議題「さか葺き屋根について」

[司会] 公益社団法人 全国社寺等屋根工事技術保存会 正会員 中野 誠

総評 ● 文化庁文化財部参事官(建造物担当)付 文化財調査官 田中 禎彦

閉会挨拶 ● 公益社団法人 全国社寺等屋根工事技術保存会 副会長 長崎 真知夫

見学会



実習見学



修理現場見学

協議会



来賓挨拶 田中 禎彦様



来賓挨拶 岡 信治様



来賓挨拶 信組 義彦様



討論会風景



講演風景 長尾 かおり様

平成28年度 檜皮採取中級研修 始まる

今年度の檜皮採取者養成研修事業は、中級研修生27名で、8月22日より22クール(1クール2週間)にそれぞれ分かれて参加し、初回は岡山の臥牛山国有林と河内長野市の市有林に入山、研修を開始しました。近畿中国森林管理局内では7ヶ所の国有林、中部森林管理局内では2ヶ所の国有林、また大阪の河内長野市市有林、京都大学の徳山試験地、九州大学の演習林、民有林については埼玉県、京都府、三重県の山に入山し、荒皮1クール、黒皮2～3クール、合計3～4クルールの研修に参加します。他事業所の職人と技術の交流を図り、より一層の技術向上に取り組んでほしいと思います。

今年度も国有林をはじめ、各山林所有者の方々にはこの研修にご理解ご協力をいただき、誠にありがとうございます。保存会としても、文化財の保存に欠かすことのできない原皮師が1人でも多く育つよう、この事業に取り組んでまいります。



平成28年度 文化財研修会

期 日 ● 平成28年9月14日(水)
会 場 ● 竹林寺本堂保存修理現場
(広島県東広島市河内町入野3103)

今年度の文化財研修会は、当会所属の若手技術者や地元建築士協会の皆さん参加の下、東広島市の篁山山頂付近にある竹林寺本堂で開催しました。本堂では、柿葺の葺替工事が行われており、研修会当日は東広島市教育委員会教育長 津森 毅様よりご挨拶をいただき、文建協 岡様から修理概要の説明を受けたのち、修理現場見学や柿板の製作実演、竹林寺住職 佐伯 修芳様の講話、文化庁 豊城 浩行様の講演と、多くの内容が実施され、様々な角度から知識を深める場となりました。今後もこういった研修会を通じ、地域の皆さんへの理解も広げながら、技術者にとっては知識の研鑽の場となるよう進めていきたいと思えます。

最後に研修会にご協力いただきました竹林寺住職 佐伯様を始め、関係各位にこの場を借りて厚く御礼を申し上げます。



柿板製作実演



修理現場見学



竹林寺住職 佐伯 修芳様による講話「竹林寺の歴史について」



文化庁 豊城 浩行様による講演「小屋組と屋根葺」



東広島市教育委員会 津森 毅様の挨拶

平成28年度 檜皮採取技術査定会及び檜皮採取実演研修

期 間 ● 平成28年10月3日(月)～5日(水)
会 場 ● 賤母国有林(長野県木曾郡南木曾町)

今年度は檜皮採取養成研修生全員が参加し、3日間にわたり実施いたしました。初日と2日目は査定会を予定しておりましたが、初日は雨のため1時間余りで切り上げ、2日目に丸一日行いました。2日目からは文化庁の田中様にも視察にお越し頂き、研修生達はいつも以上の緊張感の中、査定会と研修会に取り組んでくれたことと思います。

査定には指導員2名と指導補助員6名があたり、他のAランク者は模擬査定をしました。技術査定の経験を持たない者は、人の技術を査定することで自分の技術と対比し、よい勉強になったのではないかと思います。

なお、ランクの決定は、この査定会の成績だけではなく、通常研修での年間考課値も加味します。まだまだ研修は続きますので、今後も一生懸命取り組んでください。

3日目は、雨のため半日という、予定を短縮しての時間ではありまし

たが、Aランク者は採取の実演を行いました。B・C・Dランク者は、Aランク者の技術を見て、それぞれに得るものがあつたろうと思います。Aランク者は、Aランクの技術を持っているという自信とプライドをかけて研修会に臨んでくれたことと思っています。今後も、研修生の技術がより向上するよう、全員がこの研修会に参加した気持ちで研鑽に努めてください。

今回、快く査定会及び研修会にご協力くださいました南木曾支署関係者の方々には、心より感謝申し上げます。



文化財屋根葺士養成研修 第22期生 前期研修 終了

平成28年度国庫補助事業、文化財屋根葺士養成研修第22期生の前期研修では、平成28年4月12日に開校式を終え、5月11日より京都市文化財建造物保存技術研修センターで座学から始めました。研修生は、座学として労働安全衛生法や文化財保護法を受講し、材料整型や模型による竹釘打ちの実習を行いました。現場実習では、広島、香川、岡山の各現場で実際に屋根葺を行い、研修に励みました。さらに、建築史演習として重要文化財等の建造物を見学、また、檜皮採取の実習等、今期も内容の充実した研修が行えました。前期課程は、10月18日をもちまして無事終了しました。この間、専門科目120時間、特別科目24時間、技術実習864時間、総計1,008時間を履修しました。

初めての者は勿論のこと、数年経験した者も新たな発見、より深い理解に繋がり、また今後の取り組みに生か

していけるものと思います。今後は、来春4月まで各事業所に戻っての作業となりますが、この6か月間の経験を少しでも生かせることが出来れば幸いです。後期研修が始まるまでに、これまでの事を復習し、また健康管理にも留意し、より高い志で後期に臨んでもらいたいと思います。

最後になりましたが、関係各位にはお礼を申し上げますとともに、今後ご指導ご協力の程宜しくお願い致します。

へら作り



座学



建造物の見学



檜皮採取実習



檜皮葺実習



材料整形実習

茅葺師養成研修 第4期生 前期終了

10月17日の日本建築史の講義をもちまして、茅葺初級研修の前期課程を終えることができました。

茅葺と言えば、地方性が強く、各地の職人たちは技を隠し、決して他人に教えない風習がありました。それゆえ今でも地方性が強く守られてきたことであったのかもしれない。しかし、屋根自体が激減し、指定を受けていない茅葺屋根がどんどんなくなっていきました。同時に、職人の数も激減しました。どうすれば、伝統技術を継承することが出来るのか？ 今までも、これからも、大きな課題です。建物、材料、職人、この3つが揃い、はじめて技術の継承が出来るのです。もちろん、何より所有者の方の力が一番ということが前提ですが…。そういった広い考えの中で、自分たちが何をやるべきなのか？ 考える機会としてもらえれば、嬉しく思います。

インターネットの普及で世界のあらゆる情報が簡単に

手に入る中、本当でない情報が多いことも事実です。せめてこの研修では、本物の生きた知識と、生きた技術を学んでいただけるよう、切に願っております。

関係者の皆様には大変お世話になり、ありがとうございました。

実習



ハリ受け

座学



講義



竹の位置確認



見学



隅葺

主任文化財屋根葺士 検定会 実施される

檜皮・柿葺【第16回】●平成28年9月26日(月)～10月1日(土) / 4名(檜皮葺師)

茅 葺【第8回】●平成28年9月26日(月)～10月1日(土) / 2名

平成28年度 主任文化財屋根葺士検定会を、兵庫県丹波市の丹波市ふるさと文化財の森センターにて行いました。今回の検定会には檜皮葺4名・茅葺2名の参加があり、指定模型の屋根葺実技試験と最終日には学科試験を実施しました。

今回は検定員として、公益社団法人 全国国宝重要文化財所有者連盟 常務理事 事務局 局長 後藤佐雅夫様をはじめ、京都府、滋賀県、奈良県、文建協の各文化財修理担当の先生方と当会監事及び理事等正会員が行い、檜皮葺合格者3名、茅葺合格者1名という結果になりました。不合格となられた方につきましては、今回の結果を今後の自己技術の向上に繋げられ、次回合格を目指して再度頑張ってください。



主任文化財屋根葺士 認定証 更新講習会 開催

平成28年度 主任文化財屋根葺士認定証更新講習会を平成28年12月3日(土)、京都市文化財建造物保存技術研修センターにて行いました。

この更新講習会は、主任文化財屋根葺士に認定及び更新されてから3年が経過した方を対象に行うもので、今

回31名の受講がありました。講師は当会 村上英明会長、長崎眞知夫副会長、宮川義史常務理事が担当し、植物性屋根について講義を行いました。この講習が新たな発見、知識の充足に繋がり、今後の仕事に生かしていただけると幸いです。

平成28年度 檜皮採取者(原皮師)中級研修 終わる

檜皮採取者(原皮師)の技術力を高めるため、今年度も全国各所にある荒皮と黒皮の国有林や民有林に入山し、26クールに及ぶ研修の全行程を無事に終了いたしました。今年度の中級研修参加者は27名で、8月22日から2月17日までの期間に国有林10ヶ所、河内長野市有林、京都大学徳山試験地、九州大学の演習林、民有林5ヶ所計18ヶ所の山林にて研修を行いました。1名につき、荒皮山1クール、黒皮山2～4クール参加しました。他社の職人達とともに研修に励み、競い合ったことは、

お互いの技術向上になったことと思います。

保存会では毎年査定会も行っています。技術レベルは年々向上しておりますが、より一層の努力が必要な研修生も見受けられます。採取研修はもとより、日頃の積み重ねが大事だと思いますので、上級者も中級者もより高い意識で今後も技術向上に取り組んでください。

最後になりましたが、研修林を提供してくださった山林所有者の方々には心より感謝申し上げますとともに、今後ともより一層のご理解ご協力をお願い申し上げます。



■研修入林先一覧表 (中級)

所有者	森林管理署等名	府県名	市町村名	林名	採取期間
近畿中国森林管理局	岡山森林管理署	岡山	高梁市	臥牛山国有林	8/22～9/2
河内長野市	市有林	大阪	河内長野市	千石谷市有林	8/22～9/2
近畿中国森林管理局	兵庫森林管理署	兵庫	宍粟市	坂ノ谷国有林	9/5～16
近畿中国森林管理局	和歌山森林管理署	和歌山	伊都郡	高野山国有林	9/5～16
近畿中国森林管理局	広島森林管理署	広島	広島市	笹ヶ丸国有林	9/20～30、12/19～26
岡室様	民有林	三重	熊野市		9/20～10/1
中部森林管理局	木曽森林管理署 南木曽支署	長野	木曽郡	賤母国有林	9/20～30、10/11～21、10/24～11/4
中部森林管理局	木曽森林管理署 南木曽支署	長野	木曽郡	蘭国有林	10/11～21、10/24～11/4、11/7～18
近畿中国森林管理局	岡山森林管理署	岡山	津山市	黒木国有林	10/11～21、12/19～22
落合様	民有林	埼玉	秩父市		10/24～11/5
近畿中国森林管理局	岡山森林管理署	岡山	勝田郡	那岐山国有林	11/7～18
近畿中国森林管理局	山口森林管理事務所	山口	岩国市	城山国有林	11/21～12/2、12/5～16、1/10～20
九州大学	演習林	福岡	糟屋郡	福岡演習林	11/21～12/2
近畿中国森林管理局	和歌山森林管理署	和歌山	新宮市	権現山国有林	12/5～16
京都大学	試験地	山口	周南市	徳山試験地	12/5～16
楊谷寺	民有林	京都	長岡京市		1/10～21
湯原山八幡宮	民有林	山口	岩国市		1/23～2/3
湖南市民有林	民有林	滋賀	湖南市		2/6～17

■準会員

[五十音順]

No.	氏名
1	青木 胤勲
2	青木 照幸
3	青山 亨
4	赤嶺 尚耶
5	赤嶺 伶
6	朝野 達也
7	芦田 健太
8	蘆田 祐明
9	足立 健一
10	足立 大
11	安部 悟司
12	飯野 映稚
13	池田 陽輔
14	石井 潤
15	石井 規雄
16	石川 良三
17	石塚 健一
18	井関 善晴
19	市原 健
20	一色 律男
21	井手 莊和可
22	伊藤 貴弘
23	伊藤 延行
24	伊東 洋平
25	糸賀 一道
26	井上 裕貴
27	入江 匠
28	岩崎 正
29	上野 英樹
30	上原 玉青
31	上村 淳
32	梅澤 朋充
33	瓜生 玉樹
34	大崎 悠
35	大藤 義一
36	大西 康純
37	大野 沙織
38	大野 隼矢
39	岡田 和申
40	緒方 伸也
41	岡野 史和
42	岡山 春樹
43	奥田 治郎
44	奥田 正博
45	奥田 讓
46	奥谷 大樹
47	尾崎 良助
48	小澤 翔太
49	帯川 真央
50	片岡 晶

No.	氏名
51	方山 和也
52	勝部 哲也
53	加藤 貴規
54	金澤 翔太
55	金谷 史男
56	金磯 豊
57	包國 眞匠
58	金子 英生
59	上出 健
60	亀井 輝彦
61	嘉本 洋士
62	川田 徳宏
63	川西 鹿久介
64	河野 修二郎
65	菊地 健倫
66	菊池 保
67	岸田 直彦
68	北村 亮太
69	吉川 圭一
70	吉川 晋二
71	木下 和也
72	木下 真介
73	木村 健太
74	清田 幸臣
75	國本 雅史
76	熊谷 一雄
77	栗山 光博
78	栗山 雄二
79	栗山 芳博
80	小池 一平
81	古川 一敏
82	児島 真介
83	児玉 典史
84	後藤 哲夫
85	小西 繁信
86	小林 正之
87	小原 一樹
88	駒 宏樹
89	近藤 竜太
90	酒井 慶伍
91	寒河江 清人
92	坂口 哲也
93	佐々木 孝則
94	佐治 円創
95	澤田 昌己
96	塩田 隆司
97	須賀 均
98	須賀 将志
99	杉井 喜雄
100	杉谷 功

No.	氏名
101	大下 倉優
102	高島 優雅
103	高平 勝也
104	竹森 暢哉
105	武山 貞秋
106	立木 覚士
107	田中 順也
108	田中 慎一
109	田中 貴也
110	田中 智紗衣
111	寺田 美乃里
112	戸梶 憲幸
113	時長 祐貴
114	中尾 隆二
115	長崎 貴宣
116	中西 純一
117	長野 直人
118	永原 光敬
119	中村 裕司
120	中森 千尋
121	西 裕之
122	西内 久恵
123	西堀 大樹
124	西村 聡央
125	西村 信生
126	西村 好永
127	沼澤 修一
128	野上 邦彦
129	野谷 嘉邦
130	BAATARSUREN BAT ERDENE
131	長谷部 直之
132	林 直希
133	原田 暢俊
134	東 友一
135	檜 篤広
136	平田 将大
137	平野 健太郎
138	平野 裕也
139	廣内 翔
140	深本 英昭
141	福岡 亮太
142	藤岡 健太
143	藤中 竜也
144	瀨上 大輔
145	細見 和希
146	細見 知憲
147	細見 裕
148	堀内 博樹
149	本多 亮貴
150	毎熊 徳満

No.	氏名
151	槇原 孝宜
152	松木 裕紀
153	松島 俊一
154	松村 省弥
155	松村 純孝
156	松村 有記
157	三上 和夫
158	三上 直
159	三木 宏祐
160	道繁 康
161	三ツ出 俊平
162	緑川 幹雄
163	峰地 幹太
164	三又 誠也
165	向田 学
166	村岡 伸康
167	村上 章浩
168	村上 貢章
169	森 壮馬
170	森山 淳希
171	矢野 友則
172	山口 成貴
173	山口 宗平
174	湯田 詔奎
175	湯野 尚一郎
176	吉川 一生
177	吉川 智庸
178	吉竹 秀紀
179	余宮 祥平
180	脇村 勇海
181	和田 琢男
182	渡辺 昌弘
183	渡部 雄太

(2016.4.1 現在・第1回改訂版5.17)

発行所

京都市東山区清水二丁目 205-5
文化財建造物保存技術研修センター内



公益社団法人 全国社寺等屋根工事技術保存会

TEL 075-541-7727 FAX 075-532-4064
<http://www.shajiyane-japan.org>

手
練

第 12 号

平成 29 年 7 月 31 日発行

あとがき

先日、江戸時代に一番賑わった日本橋川から神田川、隅田川を巡る東京の川クルーズに行ってきました。乗船してみると小舟だけに水面と近く、水しぶきや風が気持ちいい。昭和初期に築造された橋の下をくぐり、首都高を見ながら高層ビルや建物の裏側が見えたりと、普段とは違った風景がとても面白いものでした。私たちの仕事も、たまには違った目線から見ると、また新たな発見があるかもしれません。

盆休みも近づき、旅行などに出掛けることも増えますが、事故やケガのないように十分気を付けて、この暑い時季を乗り越えましょう。

手練

S H U R E N

第 12 号

 公益社団法人 全国社寺等屋根工事技術保存会